

# 医療費分析を踏まえた糖尿病重症化予防等の取組の成果について

## (1) 医療費分析

荒川区国民健康保険における被保険者のレセプトデータの分析を事業者に委託し、被保険者に係る医療費分析を実施（24年12月から25年5月までの6か月分のレセプトデータ約43万5千件を分析）

### ①基礎統計

(月間平均)

被保険者数	66,723人
平均患者数	30,012人
患者一人当たり平均医療費	44,236円
レセプト1件当たり平均医療費	18,320円

### ②高額レセプトの状況

- 診療点数5万点（50万円）以上の高額レセプトは月間平均348件で件数全体の0.5%だが、医療費では約3億3,579万円で、医療費全体の25.3%を占める。
- 患者一人当たりの医療費が高額な疾病は、1位白血病（692万円）、2位脳内出血（337万円）、3位腎不全（333万円）であった（25年6月分レセプトデータによる）。

### ③疾病構造

- 腎不全及び糖尿病の6か月分の医療費は、それぞれ4.1億円、3.0億円で、医療費の高い順で2位と6位（図1）。また、糖尿病は患者数で7位（図2）。

※6か月分の医療費を疾病単位（中分類）で集計

- 腎不全及び糖尿病は人工透析に至る可能性が高い疾病であるが、生活習慣に起因する糖尿病から人工透析に至ったと考えられる透析患者の割合が64.3%と、全国平均の44.1%（※）に比べ非常に多い。

※日本透析医学会 統計調査委員会「図説 わが国の慢性透析療法の現況 2012年12月31日現在」による

<図1 医療費上位疾病>

疾病項目(中分類)	医療費(億円)	医療費に占める割合
1 高血圧性疾患	4.5	5.8%
2 腎不全	4.1	5.3%
3 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患(※)	4.0	5.1%
4 その他の消化器系の疾患	3.5	4.6%
5 その他の悪性新生物	3.2	4.1%
6 糖尿病	3.0	3.9%
7 その他の心疾患	2.5	3.2%
8 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	2.1	2.7%

<図2 患者数上位疾病>

疾病項目(中分類)	患者数(人)
1 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患(※)	15,397
2 高血圧性疾患	13,933
3 アレルギー性鼻炎	13,107
4 その他の急性上気道感染症	12,807
5 胃炎及び十二指腸炎	12,794
6 その他の消化器系の疾患	11,257
7 糖尿病	10,994
8 屈折及び調節の障害	10,097

※甲状腺障害及び糖尿病以外の「内分泌、栄養及び代謝疾患」をいう。

## (2) 糖尿病・糖尿病性腎症の重症化予防

- ・ レセプトデータ及び特定健診データを分析し、糖尿病重症化予防指導の対象者を選定し、主治医とも連携を図りながら、半年間（25年8月から26年1月）の保健指導（服薬管理、食事療法、運動療法等）を実施
- ・ 指導対象者として226名を抽出。45名が応募し、うち43名（96%）が半年にわたる指導を終了

<指導の結果（指導開始時と終了時の比較による）>

### ○指導対象者が設定した目標

(改善したい数値等)

HbA1cの改善	29人
BMIの改善	24人
制限食	7人
その他	2人

(改善したいと考える生活習慣)

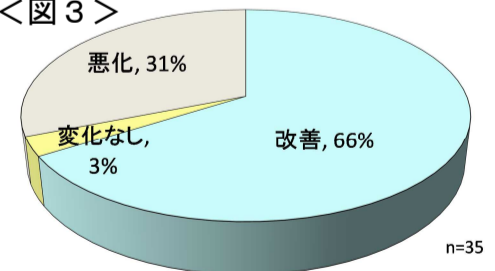
食事	75件
運動	16件
服薬	6件
その他	9件

※いずれも複数回答

### ○指導終了時の結果

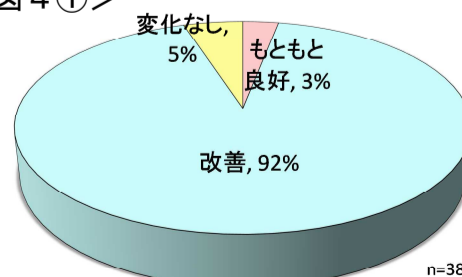
- ・ 血糖コントロールについては、66%に改善が見られ（図3）、BMIも25.0以上の肥満に属する人が63%から54%に減少

<図3>

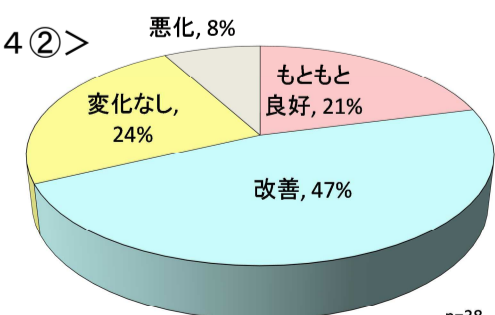


- ・ 食生活については92%（図4①）、運動・活動量については、47%（図4②）が改善したと回答

<図4①>



<図4②>



### (3) ジェネリック医薬品利用差額通知の送付

レセプトデータを基に、ジェネリック医薬品への切替えにより月100円以上の医療費の軽減が見込まれる被保険者に対し、切替えによる医療費削減見込額を明示したジェネリック医薬品の利用勧奨通知を送付  
(25年6月から26年1月まで計8回、合計21,724人に送付)

- 26年2月までに、4,485人(送付者の20.6%)がジェネリック医薬品への切替えを実施
- 8回の通知による医療費削減額は合計3,743万円
- 荒川区国民健康保険加入者におけるジェネリック医薬品普及率(数量ベース)は、通知送付前(25年5月)の18.5%から21.9%(26年2月)に上昇